
こんな幸せが欲しかったわけじゃない

ユウジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんな幸せが欲しかったわけじゃない

【Zコード】

Z5834A

【作者名】

コウジ

【あらすじ】

自分は果たして今の幸せのままいいのか、を考える男の物語です。

「いらっしゃいませ」
この言葉に乗り、俺はいつもと同じものを頼み、いつもと同じ席に座る。そう、ここは、とあるファーストフード店。
そしてここでいつも考える。…これは俺が欲しかった幸せじゃない。一年前、俺はこのファーストフード店で3年間バイトをしていた。ここはみんなが仲良し、まるで家族のように俺を優しく包んでくれる空間だった。

そしてそこには一人の女性（以後、夏）がいた。

夏は一つ年上の女性だが無邪気な可愛らしさに惹かれ、好きになるのにそう時間はかからなかつた。夏は一つ年上の女性だが無邪気な可愛らしさに惹かれ、好きになるのにそう時間はかからなかつた。始めて自分からアドレスを聞き、始めてデートに誘った女性だった。始めて二人で映画を見たり、俺には全てが始めてずくしで、毎日が新鮮だった。それから8か月程たつただろうか。夏とはいつしか何でも言い合える仲にまでなつていた。俺が夏に告白をしたのもこの頃だった。

「友達としか思えない」

あの頃の俺はこの言葉の意味がわからず、ただ、泣いた。いつか夏を振り向かせる、それはいつしか異常な行動にも現れていた。そんなしつこい俺に対しても、夏はいつもと同じ笑顔で、誰よりも明るく接してくれた。俺が一番安心できるその笑顔で。

それから新しい春がきて、俺は専門学校に進学していた。
そして忙しくなりバイトもできなくなり、夏とも接することがなくなつたのもこの頃だ。

俺には彼女ができた。

新しい環境に新しい出会い、そして平凡な幸せの中にいつしか俺の中での夏の存在は薄れていった。

そんなある時、俺の耳に一曲の曲が流れ込んで来た。
その曲は昔夏と見た映画の主題歌だった。

その時はまだ懐かしいくらいにしか思わなかつたが、夜テレビをつけるとその映画のアニメ版が放送されていた。まるで一年前を思い出させるかのように。俺の中で、何かが浮かび上がってきた。それは昔、夏と一緒に遊んでいた頃の、夏を追いかけていた一番楽しかった時期だ。あの頃の気持ちが蘇つてくる。そして自分で自分が自分に問い掛ける。

「お前が欲しかつたのはこの幸せか？」
と。俺には自分のその問い掛けに答えることができなかつた。一年前に戻りたい。こんなことを考えながら、また今日も一日が終わつていく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5834a/>

こんな幸せが欲しかったわけじゃない

2010年10月28日04時10分発行